

# 伝説の定着

そして、嘉助の物語は、昭和八年（一九三三）に刊行された『松本市史』に地域の伝説として採録されるに至ります。「血走る眈を裂いて松本城を瞰むと同時に、恐ろしい地震がして、天守閣は西に傾き、藩吏は恐れおののき、会衆の念仏は頻りに起る。」という、「睨む」「地震」「西に傾く」などのキーワードが巧くこなれて、伝説として一段と完成した形に仕上がっています。

竹内氏の『中萱嘉助略伝』発表から、『松本市史』刊行までの五十年余りに、小説や演劇として発表された物語の一面面は、それを受入れた人々の手によって伝説に仕上られ、定着することになったのです。

